

# 教育研究所だより

No.223号 令和3年3月22日(月) 【発行者】守山市教育研究所 所長 西川 典子  
守山市勝部三丁目9番1号(守山市生涯学習・教育支援センター 愛称:エルセンター 3・4階)  
TEL:077-583-4217 FAX:077-583-4237  
E-mail:kyoikukenyu@city.moriyama.lg.jp  
HP: [http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenyu\\_index.html](http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenyu_index.html)

## 「私の行き方」(登り続けて49年)

木瀬 啓 氏(元中学校長)

楽志とは志をもち、楽しむことである。初心を忘れずに楽しみながら、教師人生を歩んでほしい。派手なことは続かない。小さなことでも何かひとつ続けることである。そこから気づきが生まれ、思いもよらない大きなことができるのである。



人には、それぞれ大事な心の財産があります。あの人に、あの物に、あの事に出あって「今がある」というように、いろいろな出会いから、目標・心の支え・生きがいとなっていることがあります。さまざまな体験は、自分を育てる大きな栄養になると思います。

### 📖 人間は、出会う人・物・事によって変わる

私自身、人との出会いは、高二の時です。体育の先生との出会いが私の教職を志す動機となりました。事との出会いは、教職4年目の頃です。女子バレー部顧問時、驕った心と姿勢から生徒に手をあげてしまいました。「おかげ」を知らない自分があり、「おかげ」がわかる人間にならなければ」と自省・自戒することがありました。

### 😞 自ら課す(身を以って示す)

教師として自分の行動を見つめ、心を磨くために、地元にある西国32番札所観音正寺1200段の石段を毎朝登ることを決めました。昭和47年8月24日から登り始めて今年で49年になります。雨・風・雪の日、一度も嫌だと思ったことはありません。むしろ自然は自分を試してくれていると思っています。登れない程の病気・怪我・事故なく続けさせてもらえるのは、多くの人・物・事の「おかげ」以外にないと思っています。愚直に続けることから「おかげ」がわかり、「感謝の心」を持つことの大切さを知りました。加えて、本堂の雑巾がけもさせていただいています。毎日の掃除で、人は、いつも見ているものに心も似てくるとしています。

### 😊 心を磨くために(日々自分に言い聞かせていること)

- ・誰でもできることを誰もが真似のできないほど続けること。
- ・何事も自分が習慣をつくり、やがて習慣が自分をつくること。
- ・日々の行動や心の有り様を記録すること。(日記をつける)
- ・当たり前のことに自分なりの心を入れること。(平凡道を非凡に歩む)
- ・同じ事の繰り返しを嫌がらず楽しむこと。
- ・どんな時も、「ありがとう」と言える準備をしておくこと。

同じ事の積み重ねが、自分の意識や考え方・行動を変えることになると思います。自分を成長させるために言葉だけでなく、

身を以って示すこと、結果を焦らず、力まず、目立たず、粘り強く積み重ねることを私の行き方(生き方)にしていきたいです。





# 今年度の研究成果を報告します

ご協力いただいた先生方に感謝申し上げます。



## ●指導力向上に関する研究 1

「互いの考えや気持ちを進んで伝え合おうとする力の育成」  
～単元のゴールにつながる“Small Talk”の工夫～

本研究の成果については、“Small Talk”の工夫を実践する前後に実施した「外国語に関する児童用アンケート（市内5年生の内、抽出した12学級の約400人）」の結果から分析を行いました。

成果は、「互いの考えや気持ちを伝え合おうとする力の育成を図るためには、単元のゴールにつながる“Small Talk”を工夫することが有効である」ということが、明らかになったことです。

その理由として、「英語で友だちとやり取りをすることは好きですか。」という問いに対して、明確に肯定した児童が32%から44%に大きく増えたことが挙げられます。身近な話題について、自分自身が伝えたい内容を表現させたり、既習表現を使ってペアでやり取りをさせたりする“意味のある活動”を設定してきたことが、この結果につながっていると考えられます。

また、「スモールトークの活動は好きですか。」という問いに対して、全体の8割近い児童が肯定的な回答をしたことも理由として挙げられます。「みんなとコミュニケーションが取れるから。」「リアクションが楽しいから。」「友だちのことをたくさん知れるから。」と、伝え合う喜びを実感する回答が多くみられました。

“Small Talk”は、自分の考えや気持ちを自由に伝え合うものです。“Small Talk”という言語活動を工夫することは、子どもたちのコミュニケーション力を育成することにつながります。「人と関わる力」「自分を表現する力」「相手の気持ちを考え、思いを寄せる力」「力を合わせて取り組む力」、そんな“コミュニケーション力”を、子どもたちにはもちろん、学び続ける教師としての自分自身も育んでいきたいと思えます。



(担当所員：係長 中道 裕恵)

## ●指導力向上に関する研究 2

「教育相談の視点を生かした学級活動のあり方と実践展開」  
—対話的關係を重視し、人と人がつながる居心地のよい学級を目指して—



本研究は、事前に児童生徒を対象としたアンケートをとり、学級の現状と課題を把握してから居心地のよい学級にするための取組を行いました。内容は主にピア・サポートの取組でしたが、ソーシャルスキルトレーニングやアサーショントレーニングなどの取組も行いました。取組実践後に、再び児童生徒アンケートをとり、その成果と課題について考察しました。

成果としては、学級の現状や課題を把握し、居心地のよい学級にするための教育相談的な視点を定めてから実践することで、効果の差はあるものの、すべての学年で「居心地のよい学級」になったことです。特に、「自分の言動が学級の人から認められていると感じる度合い」に関しては、全ての学年で上昇しました。このことから、学級の現状に合ったピア・サポートなどの取組を行うことによって、児童生徒同士のつながりが生まれ、「居心地のよい学級」となることがわかりました。

また、事前・事後に児童生徒アンケートを実践したことにより、担任から見えにくい学級の現状について、視覚的に確認することができました。アンケートからわかった学級の現状から、学級の課題解決に向けて行った取組が、どのような成果があったのかについても視覚的に確認できたため、本研究においてアンケートを活用したことは成果の一つでした。

課題としては、取組を行うために学級活動の時間を捻出することが困難であったことがあげられます。一方で、継続的な取組を行ったことにより、子どもたちが学習した内容を意識しながら学校生活を送るなどのよい変化が見られたということも研究協力員が感じており、継続的な取組を行う必要があるとわかりました。これらのことから、効果的な「居心地のよい学級にするための取組」を市内小中学校すべてで継続的に進めやすくするために、各校の特別活動の年間計画を見直していきたいと思えます。

(担当所員：研究員 天沼 翔太)